



## 月刊バイブル（世界のベストセラー、聖書のトリビア）

### 第 29 号

発行：レムナントキリスト教会

価格：100円（送料込みで200円）

### 〔目次〕

- ◎ 聖書からのメッセージ：「よみがえって永遠のいのちを受ける」エレミヤ
- ◎ 聖書と日本語「狭き門」
- ◎ イエス・キリストに出会う「やもめと一人息子」
- ◎ キリストを信じた体験談「神を避け所とするなら」by S
- ◎ 聖書を信じた有名人のことば：パトリック・ヘンリー（アメリカ愛国者）
- ◎ 聖書贈呈

### <聖書からのメッセージ>

#### 「よみがえって永遠のいのちを受ける」 by エレミヤ

本日は、「よみがえって永遠のいのちを受ける」という題でメッセージしたいと思います。

人は死後いったいどうなるのでしょうか？死後どのような運命が私たちを待っているのでしょうか？ある人は死後、無になるといいます。死後天の星になるとい人もいますし、千の風になるとい人もいます。色々な意見があるのですが、一体何が正しく何が真実を述べているのでしょうか？私たちは子供のときから何年も学校に通っているのですが、この様な重要なことがらに対しては何の答えもありません。

#### <聖書に答えがある>

さて、このことに対して私たちの結論をいうなら、私たちは聖書の中にこれらの人生の重大事に関する真実の答えがあると思っています。聖書は日本人の間にはあまり知られていない本であり、その重要性を理解する人も少ない本です。しかし、もし、私たちが聖書について真面目に調べるのなら、その正確性、その重要性にびっくりするようになるでしょう。聖書は人の書いたほかの本と異なり未来への預言を語り、そしてその預言が成就する本なのです。聖書には数千の預言が書かれています。まだその時期が来ていないため、成就していない預言はありますが、しかし、外れた預言はありません。繰り返し言います。外れた預言は一つもないのです。このようなことは、人の書いた本にはありえないことです。ただ唯一未来も過去も知っておられる神のみが書くことが可能な本なのです。他にも聖書が驚くべき本であることを語るポイントはいくつもあります。

## 「よみがえって永遠のいのちを受ける」エレミヤ

たとえば、歴史的に全く正確であること、科学と矛盾していないことなどなどです。しかし、そのようなことを語ってはいつまでも本題に入れませんので、このあたりにします。

＜死後人は無にならない、すべての人がよみがえって裁判の場に立つ＞

さて、その聖書は私たちの死後の運命に関して以下の様に述べます。

**ヨハネ 5:28** このことに驚いてはなりません。墓の中にいる者がみな、子の声を聞いて出て来る時が来ます。

この箇所からわかることはこのことです。それは死んだ後、墓に入った人は誰も彼もみな無になるのではなく、死後もその存在はとどまるということです。勿論私たちの肉体は死後すぐに朽ちたり、腐ったり、風化したりして、物質的には、分解されてしまうかもしれませんが、しかし、人間は物質だけの存在ではなく、人の魂はとどまるのです。

ですから、人は死後無になる、存在しなくなるということではないのです。全ての人は死後、眠ったようになりますがとどまります。ですから消滅したり、無になる人はいないのです。そして死んでそれでその人の歴史は終わりというわけではなく、人類の歴史の終わるとき、すなわち、世の終わりのとき、すべての人がその墓から出て、自分の生きていたときの人生の報いを受けるようになります。それをさして、聖書は「墓の中にいる者がみな、子（キリスト）の声を聞いて出て来る時が来ます。」と語るのです。

**5:29** 善を行なった者は、よみがえっていのちを受け、悪を行なった者は、よみがえってさばきを受けるのです。

その世の終わりの日に今までの人類の歴史に登場した全ての人は、誰も彼もみないっせいに復活します。もう一度生き返って生前の

様に五感が整うのです。

＜死後運命は2分する＞

全ての人は復活するのですが、しかし、その後の運命は全て同じではありません。逆に明確に2つに区分されます。すなわち、生きていたとき、善を行った人はその良い報いとして永遠のいのちを受けるようになります。彼らはもう決して死なない命を受けるようになるのです。しかし、もう1種類の人々がいます。悪を行った人々です。彼らは復活したあと、罰を受けるようになります。その罰とは具体的にどのようなものでしょうか？以下にその死後の罰について書いてあります。

**黙示録20:12** また私は、死んだ人々が、大きい者も、小さい者も御座の前に立っているのを見た。そして、数々の書物が開かれた。また、別の一つの書物も開かれたが、それは、いのちの書であった。死んだ人々は、これらの書物に書きしるされているところから従って、自分の行ないに応じてさばかれた。

**20:13** 海はその中にいる死者を出し、死もハデスも、その中にいる死者を出した。そして人々はおのおの自分の行ないに応じてさばかれた。

**20:14** それから、死とハデスとは、火の池に投げ込まれた。これが第二の死である。

**20:15** いのちの書に名のしるされていない者はみな、この火の池に投げ込まれた。

上記箇所には人の死後の運命に関して説明してあります。ここでは、生前悪を行い、いのちの書に名前が記されていない人々はみな、火の池に投げ込まれることが描かれています。火の池とは想像するだけに恐ろしい状況です。しかし、聖書は信頼に欠ける本ではなく、前述したように、人知を超えた、神が著者としか思えない本ですので、この聖書のことばは真面目に一考も二考もするに値します。

## 「よみがえって永遠のいのちを受ける」エレミヤ

どのような人が火の池に投げ込まれないで済むのでしょうか？ここでは、

**「いのちの書に名のしるされていない者はみな、この火の池に投げ込まれた。」**と書かれていますので、どうもこのいのちの書という書が大事なキーワードのように思われます。

このいのちの書に私たちの名前を書いてもらうことがどうも大事なことがら、であることがわかるのです。

このことは大事です。世の中には色々大事なことがあります。結婚も出産も就職も大事です。またお墓の用意も相続の用意も大事です。しかし、さらに大事なことがあると思います。

私たちの死後の運命が確かに2つに分かれており、また、正しく死後の用意をしなければ、誰も彼も火の池に投げ込まれる可能性があるというなら、このために用意することは大事、否、もっとも大事なことでないでしょうか。このことに比べれば今の世の中の小さなことからは枝葉末節のことから、と思えます。

さて、そのいのちの書とは何でしょう？私たちはどうすれば、その書に名前を記してもらうことができるのでしょうか？このことに関して聖書はこう語ります。

**ヨハネ 3:15** それは、信じる者がみな、人の子にあって永遠のいのちを持つためです。

**3:16** 神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。

ここに書かれているように、人の子すなわち、キリストを信じる人が永遠のいのちを持ち、またいのちの書に名前が記されるのです。

このことは納得のいく人も、いかない人も

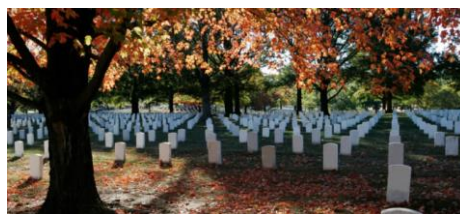
いるかもしれませんが、しかし、神の方法を尊重すべきです。

たとえば、神が万有引力の法則を作り、この宇宙でその法則を運用しているなら、誰も彼もその法則を尊重するしか方法はありません。引力にさからって1mジャンプしてもすぐに地上に引き戻されてしまうものです。宇宙を創り、その法則を定めた神は私たちの救いや、滅びからの脱出に関して、イエス。キリストという方法を用いました。以下の通りです。

**使徒 4:12** この方以外には、だれによっても救いはありません。世界中でこの御名のほかに、私たちが救われるべき名としては、どのような名も、人間に与えられていないからです。

このことばのように、聖書は他の誰の名前でもなくキリストの名のみに救いがあることを語るので、その神の方法を尊重したいと思うのです。

さらに上記ヨハネの聖書箇所には神の意図、意志が書かれています。「神は、…世を愛された。それは…、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」と書かれているように、神の意図、望みは私たちの誰一人、滅びたり、火の池に入ることはありません。逆に神の用意した神の御子であるキリストを通して得られる救いを全ての人々が得ることが神の願いなのです。このことばに耳を傾け、キリストに心を向けてみましょう。—以上—



**死者が神の子の声を聞きよみがえる日が来る**

## 聖書と日本語「狭き門」

聖書はあまり日本人には馴染みがないものかもしれませんが、実はそうでもないのです。

「狭き門」という言葉があります。入試や就職活動の季節になると、よく聞かれる言葉です。この言葉は、競争が激しく合格するのが難しい、という意味として用いられています。この言葉と聖書と何のかかわりがあるかと思われるかもしれませんが。これは聖書新約聖書マタイ7章の言葉から来ています。

### マタイ7章13節～14節

狭い門から入りなさい。滅びに至る門は大きく、その道は広いからです。そして、そこから入って行く者が大いのです。いのちに至る門は小さく、その道は狭く、それを見出すものはまれです。

実はこの「狭い門」というのは、天の御国に入る門のことを指しているのです。

そして天の御国に入ることがまさに「狭い門」であり、とても難しいこと、難関であるというのです。主イエスは天国への門は小さく、道は狭く、それを見つけ出す人は稀であるといわれています。

そしてイエスは「狭い門」と「広い門」の2つの門があり、それは「いのちに至る門」と「滅びに至る門」であると語られています。「狭い門」は、天国に入れる、永遠のいのちに至る門であり、「広い門」は、天国には入れず、滅びに至る門であると書かれています。そして「広い門」をくぐる人が多いのです。とあります。

この門というのは私たちの歩む道のこと、人生のことです。

人生には2種類の道があります。人は最後にそのどちらかの門をくぐります。

広い道である、この世の常識的な考えでは、自分の力で懸命に努力することが大切だと考えます。そして成功や自分の願いがかなうことを求め、それを得るために懸命に進んでい

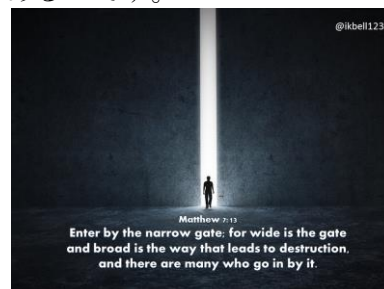
きます。

もう一つの道は、自分の力で進むのではなく、神の御子イエスを救い主として頼る人生。唯一の造り主である父なる神様に従う生き方です。目に見えない神様の力を信じて、自分の力に頼らずイエスにより頼む人生が「狭い門」です。多くの方は、目に見えない神様より、実際に目にみえるもの、自分の能力で人生を進めていく方が確実のように感じるのではないのでしょうか。

しかし主イエスは、「狭い門」から入りなさい。と言われていています。イエスは私たちの常識、世の常識とは全く反対のことを語られているのです。イエスを信じる「いのちに至る門」は狭く小さく、見出すのは稀といわれます。自分の力で、この世の成功や自分の望みをかなえる道の方が神に従うより自由で良く思えるのです。しかし広い道は「滅びに至る門」だといわれています。私たちの常識では、良さそうに思える道が実は滅びに直結しているのです。この世の価値観ではなく、イエスに頼り生きていくことは、非常識で心細い狭い道に見えるかもしれませんが。でもこれが永遠のいのちにつながる道なのです。

マタイ16:26では「人はたとえ全世界を手に入れてもまことのいのちを損じたら、何の得がありません。」

とあります。永遠のいのちを得ることにより、大切なことです。「狭い門」という言葉にはこのような神さまからのメッセージがあるのです。



狭き門

## イエス・キリストに出会う 「やもめと一人息子」

ルカ7：11～16

それから間もなく、イエスはナインという町に行かれた。弟子たちと大ぜいの人の群れがいっしょに行った。

イエスが町の門に近づかれると、やもめとなった母親のひとり息子が、死んでかつぎ出されたところであった。町の人たちが大ぜいその母親につき添っていた。

主はその母親を見てかわいそうに思い、「泣かなくてもよい」と言われた。

そして近寄って棺に手をかけられると、かついでいた人達が立ち止まったので、「青年よ。あなたに言う、起きなさい」と言われた。

すると、その死人が起き上がって、ものを言い始めたので、イエスは彼を母親に返された。

人々は恐れを抱き、「大預言者が私たちのうちに現れた」とか、「神がその民を顧みてくださった」などと言って、神をあがめた。

このルカの7章で、イエスはナインという町で、お棺を担ぐ行列に出会われました。

亡くなったのは、やもめの一人息子でした。当時のやもめは非常に貧しく苦しい生活状況におかれていました。そのような中で、唯一の希望は、一人息子の成長だったでしょう。その青年が死んでしまったのです。

夫を亡くし、一人息子をも亡くした女性は、言い表すことのできない程の深い悲しみと絶望の中、お棺の傍で歩いていたのです。全く救いようのない悲しい状況です。多くの人たちが、やもめに付き添っていましたが、誰もどうすることもできません。悲しい葬儀の行列でした。

イエスは、やもめの絶望と悲しみを知っておられました。やもめの状況をすべてご存知だったのです。そして、深く憐れまれて、やもめの傍にまで来られ「泣かなくてもよい」と慰めの言葉をかけられたのです。

主は、やもめだけでなく私たちのすべての状況を知っておられます。主イエスは絶望の淵にいる人を決して見過ごしにされません。

そして痛む心を深く理解され、傍らにまで来てくださり、慰めの声をかけてくださる方です。誰もが、絶望の悲しみの中において、主イエスの憐れみに触れることができるのです。

さらにイエスは、お棺に手をかけ「青年よ。起きなさい。」と死んでしまった青年に呼びかけられました。驚くべきことに、青年は起き上がり、話し始めたのです。絶望の淵にいたやもめの大切な一人息子が戻ってきました。大切なものすべてを失い、一人ぼっちのやもめに生きる希望が与えられました。

同じく、イエスは私たちを癒し慰め、その苦しみから救い出してくださいます。

そして、人間にはどうしてもできないものに「死」があります。どのように努力しても「死」に対して人間はどうしようもできません。やもめの息子のそばにいた多くの人々が、何もすることができなかつたように、人は「死」の力の前に全く無力です。しかし神の御子イエスは違います。イエスは死に対して力ある方なのです。イエスによって、やもめの一人息子が死から助け出されたように、主イエスを信じる人は死に打ち勝つことができます。

イエス・キリストは、絶望的な状況で苦しみ、悲しむ人々に希望を与える方なのです。



やもめと一人息子

## キリストを信じた体験談 「神を避け所とするなら」 by S

私がまだクリスチャンになる前のことです。その当時、私は求道中で教会に行くようになりました。そこは牧師さんのご家族、宣教師、数名の信者さんのいらっしゃる小さな教会でした。私がおの教会に行くようになったきっかけは、家族に配布されたチラシでした。「土曜日の夜に、外国から来た人たちがパントマイムをしたり、話をしたりするみたいよ。楽しそうだから行ってみない？」という家族からの誘いで行くことになりました。実はその時、私はまさかその場所が「教会」だとは思わなかったの、足を運んで正直びっくりしました。しかもその当時はイエスさまと教会が関係あることについてあまりピンと来ていなかったの、単に、「宗教はいやだなあ」と、そんな思いで教会に足を踏み入れました。でも、行って見ると、悪い感じはしませんでした。同世代くらいの人でも数人いて、その中にはクリスチャンの人もいて、しかもとても温かく迎えてくれました。なので少しホッとしました。

そしてそこには宣教活動の一環で10人位の外国のクリスチャンがいました。イエスさまの十字架の救いのパントマイムがあり、その後彼らとお茶を飲みながらお話ししたりする時間を持つことができました。毎週その集まりに参加していたのですが、ある時、何人かの人からクリスチャンになってからこんな風が変わった、という話を聞かせてもらいました。

ある男性は、「自分はクリスチャンになる前は警察にお世話になったこともある。車を盗んだり、未成年なのに酒に溺れていた。でも、イエス・キリストと出会ってから、人生が一変した。自分の罪に気付いて、神さまの前に泣いて悔い改めて、クリスチャンになって・・・そして今までやっていた悪いことを全部止めることができた。自分のことをよく知っている友人は、そのことを悪く言ったり、なじったりしたけれど、そういう友人とも縁を切ることができた。イエス・キリストに信頼して、そして助けてもらった」ということを話していました。

次にある女性の話ですが、私はその人から直接聞いたわけではありませんが、私の家族が彼女から話を聞いたところ、その人はクリスチャンになる前に「覚せい剤」のとりこになっていたそうです。でも、イエス・キリストを救い主として信じて受け入れてクリスチャンになってから、「覚せい剤」からみごとに解放されたそうです。

両者共に、すばらしい証だと思います。人間的な感覚から言えば、アルコールや覚せい剤の依存症から解放されるのはほぼ「不可能」に思われるのですが、しかし聖書には「神にはどんなことでもできる」ということが書かれています。

## キリストを信じた体験談 「神を避け所とするなら」 by S

また、「彼（イエス・キリスト）に信頼するなら、失望させられることはない」ともあります。その当時は聖書のことばを知らなかったので深く考えなかったのですが、今にして思えばお二人はきっと、これらのみことばを信じて、神さまを避け所として、イエスさまにひたすら助けを求めたのではないか？と思います。その結果、「罪」の力からみごとに解放されたのではないかと思います。

それから一年後に私も洗礼を受けてクリスチャンとして歩みをスタートさせて、色々と紆余曲折がありながらも今日に至っていますが・・・私自身もあの罪、この罪と、特に神さまから示しを受けた時には、当然「罪」からの解放を求めるのですが、お二人の体験は今の私の信仰の歩みに良い意味合いで大いに影響を与えるものとなりました。人間的には「絶対に無理！」とか「難しい」とか「かなり厳しいのでは？」と思うことを神さまは成し遂げてくださったのですから、それは彼らだけでなく、神さまを信じる全ての人に適用されるのでは？ということを感じて、私も神さまに助けを求めています。「罪」にかぎらず、なかなか難しいかなあと思うことも時には起きてきたりもしますが、「神に不可能は無い！」ということを感じて助けを求めていくときに、ありとあらゆることへの解決に導いていただいています。そしてこのことは現在進行形でもありますし、未来にも成

就していくと信じています。

もし、何か問題やトラブルや、あるいは罪があったり、こと、人間的には無理かも！なんていう風に思うことがあっても、決して失望しないでください。私も色々なことがありましたが、イエスさまに抛り頼んで解決されなかったことはひとつもありませんので、ぜひ神さま（イエスさま）を信じて、助けを求めてみてください。たしかにこの世においても様々な解決策はありますし、それらを否定するわけではありませんが、しかし一にも二にも、イエスさまの力を求めていくときに、もっとも良い方向へと導いていただけますので、ぜひおすすめます。最後にひとつみことばをお読みして証を終わりにしたいと思います。

62:8 民よ。どんなときにも、神に信頼せよ。あなたがたの心を神の御前に注ぎ出せ。神は、われらの避け所である。

(旧約聖書〔新改訳〕：詩篇62篇8節)



祈りに答えられる神

## 聖書に関する有名人のことば：パトリック・ヘンリー (アメリカ愛国者)



「聖書は今まで印刷された全ての本に匹敵する価値のあるものである」

### ＜お知らせコーナー＞

#### ●聖書贈呈プレゼント！

月刊バイブルお読みになっていかがでしたか？少し、聖書に興味がわいてきましたでしょうか？このたび、当教会では聖書贈呈、プレゼントを行っています。この機会に聖書をあなたも読んでみませんか？ご興味がありましたら、ぜひ、お申し込みください。

以下を記載の上、mail:truth216@nifty.com もしくは fax:020-4623-5255 もしくは tel:042-364-2327 へ連絡ください。

郵便番号:

住所:

名前:

#### ●レムナントキリスト教会「日曜礼拝」のご案内

見本

曜日/時間:毎週日曜日/午前 10:30-12:30,午後 14:00-16:00

場所:東京都、京王線府中駅前、府中グリーンプラザ本館 (tel:042-360-3311)

1F のエレベーター脇の部屋表示板で、「レムナントキリスト教会」の部屋を確認ください。

どなたでも来会歓迎、入場無料です。tel:042-364-2327, mail:truth216@nifty.com



#### ★教会のHPもあります。

ご興味のある方は、“Yahoo! Japan”で、「府中 レムナントキリスト教会」で検索ください。

尚、レムナントキリスト教会はプロテスタントの教会です。ものみの塔や統一教会とは関係ありません。

☆クリスチャンになったばかりの方やノンクリスチャンの方におすすめのサイト:オリーブ&ミルトス

<http://remnantnotudoj.jimdo.com/>

☆ノンクリスチャン向けへのブログサイト:パンの家

<http://87494333.at.webry.info/>

☆クリスチャンの方におすすめのサイト:エレミヤの部屋

<http://www.geocities.co.jp/Technopolis/6810/>

☆クリスチャン向けへのブログサイト:終末の風

<http://whattopics.at.webry.info/>